

MJ 進路通信

群馬県立前橋女子高等学校
進路指導部
令和5年1月25日(水)第35号

3年来週2/3が国公立前・中・後期出願期間の×切

2/3必着の大学も多数あり。2/1までには出願しておきたいところ

出願は親がやってくれる人もいるだろう。しかし、封筒に入れる前に、**必ず自分の目で一緒に書類を確認**すること。

- ・前・中・後期一括出願 独自日程は2/3以前も有り
- ・令和5年共通テスト成績請求票を願書に貼ったか
- ・調査書は「厳封」。開けたものは使えません。開けちゃダメ。

私大・二次試験で「勝つ！」

共通テストに向けて「あれだけ」演習を積んだ。私大・2次試験に向けても「それだけ」やる。

共通テストに向けた予想問題・過去問の演習によって、みんなは「どのような形式か」「どういう順番で解くか」「試験時間は何分か」「当日の時間割」などをわかった上で本番に臨んだはずだ。国公立2次試験に対しても、上記4項目は最低理解しておかなければならない。そのためには、過去問演習（大学によっては、予備校のプレ模試の過去問もある）を数多くこなさなければならない。私大はいくつも受けるから、1大学につき10年分もできるわけではない。第1（～3）志望の大学に重点を置いて、それ以外は1,2年分だけでいいから触れておく。何も知らないで、試験当日「え？英語、80分だと思ってたけど60分なの？！」という状態では、すべり止めの大学も足元をすくわれる。

「試験時間で解いてみる」→本番、試験時間の中で“解ける問題をチョイスする”のだから、その訓練をしなきゃ！

「2次対策＝添削」であるが、これが全てではありません。当然、記述力、思考力、応用力が問われるので、先生に添削してもらい、自分の解答の精度を高めていくことが「学力を高める」ために大事なことです。どんどん先生を頼って、やっていきましょう。ただし、この時期先生方もたくさんの添削指導を抱えています。「礼を欠くことのないよう」、指導を受けてください。

2次試験、私大個別で取りたい点をロックオン

話が少し逸れました。添削してもらっただけでは、対策は不十分です。他に知っておくべきは、「目標得点」です。その得点を目指して残りの時間を過ごすのです。泥臭く、共通テスト前よりもガンガンやるのは「大前提」で、「ただ受ける」のではなく「受かりたい」のなら2次で取るべき点数をロックオンして、どの教科でどれだけ取るという戦略を持って一直線に突き進んでください。2次試験は難しい問題もあるので、満点を取る必要はありません（もちろん8割取らなければならない大学もあります）。そして、試験時間の中で、解ける問

題と捨てる問題を見極める。その訓練をしていく必要があります。だから、通して解く、その中で解ける問題からやっていく、目標得点にどうやって届かせるのか、それをシミュレーションしながら過去問演習をやっていくのです。「先生に添削を出すために、いくつかある大問の一問だけ解いて持っていく」ばかりだと、その訓練ができません。時間配分、“やる問題捨てる問題”のチョイス、共通テストに向けて行った対策のようにまで持っていくこと。

私大は1点にこだわれ！直前の直前まで知識を入れろ！



私大は1点にこだわること。「こんなもんでいいかな」ではなく、とことん覚える。「特編でやっているところが本番で出てくれ」と思って、特編で出てきた知識は全入力する。なぜなら、例えば早稲田大学の社会科学部。3教科で130点満点(英50国40社40)。受験者数は約1万人。130点の中に1万人がひしめき合うわけだ。「私大は1点のところに何十人もいる」というのを聞いたことがあると思うが、大袈裟ではなく何十人どころではないのもわかるだろう。だから、とことん1点にこだわるんだ。前日にやったところがそのまま出ることだってあるのだから、最後まで手を抜かないこと。

1,2年 テーマは3つ①復習②挑む③定着

①復習←進研模試

進研模試、お疲れ様！どこに「穴」がありましたか？

復習が大事！～模試直しノートを作ろう～

模試は業者が作る大学入試予想問題！

模試とはその時点での実力を測る「だけ」のものではない。大学入試を分析研究している業者が出す「良問」です。これをやり直すことで効率の良い勉強が出来るのです。3年生になったら、立て続けに模試がやってきます。受けっぱなしが一番意味がない。これまで受けた模試、教科ごとにまとめておこう。

②挑む→2/4(土)駿台模試

◎駿台模試の得点目安

模試は、「得点」で見えていく！

駿台模試偏差値	3教科得点率	大学
偏差値75	約 70%	→東京(理Ⅲ)
偏差値70	約 60%	→東京医科歯科(医)
偏差値65～67	約 55 ～ 58%	→東京
偏差値60	約 53 ～ 55%	→一橋
偏差値57～59	約 48 ～ 53%	→地方国公立医学科
偏差値55	約 45 ～ 50%	→旧帝大
平均点＝偏差値50	約 40 ～ 42%	→千葉

駿台模試のテーマは、「挑む」そして「取れる問題と取れない問題の見極め」

駿台模試の意義やコンセプトについては、通信を通じて繰り返し伝えていきます。この意義やコンセプトを理解してくれば、担任の先生に「ここを目指してごらん」「一つ、二つ高いところを目指して頑張らなさい」と言われて、または自ら目標にしている“ここ”や“一つ、二つ高いところ”の合格が夢・目標から現実に変わります。

「駿台模試は難しいからシャットダウン」では、二次試験のある国公立大学や難関私大に太刀打ちできない。「友達同士で駿台模試なんてできないよねー」なんて言い合っているのは、2人で「一つ上の大学には受からないねー（受からないのは私だけではないから安心）」という“切磋琢磨”できる関係ではないわけだ。

駿台模試の得点目安を見てほしい。難しい問題を全部取らなければダメなわけではない。約 4 割取れば、ブロック大と言われる千葉大学がターゲット。裏返すと、6 割捨てても千葉大学に受かるということです。東大レベルも 6 割できれば合格するレベルということです。

だから、駿台模試のテーマは、「駿台模試に挑むこと」そして、「できる問題と捨てる問題を見極めて、できると見極めた問題に食らいつくこと」です。特に、国公立 2 次試験や難関私大に必要な「**取れる問題と取れない問題の見極め**」、この訓練を軽視している人は多い（というより、まずはできる問題を増やしていくという学習が中心になっている人が多いからなのだが。これはこれで大事な学習ルート）。進研模試もレベルは、基本の受験学力を問うているので、基本は捨てていい問題はない（もちろん、偏差値 50 台の人はできる問題を見つけていく）。よって「どの問題が自分にとって解ける問題なのかの見極めを試せるのは、「駿台模試」くらいしかない」。駿台模試、2 年生はこの後 3 年の 6 月、9 月にある。1 年生は 2 年の 10 月、2 月。ぜひこういったコンセプトを持って、駿台模試に挑んでほしい。

そして、この模試を受けた後に見つかった課題を残りの春休みまでの 2 ヶ月で埋めていくのです。「まだまだ太刀打ちできないから、どのレベルの基礎から徹底的にやろう」、「この駿台レベルの問題を 6 割りできるようになるためには、かなりのスピードで量をこなさなければならない」、「読解はできたが、サマリーや英作文などの出力ができない」「文法や句法は入っているが、演習が足らない」など課題を見つけ、力を伸ばしていけばいいのです。

③定着→2/21(火)～2/27(月)学年末考査

2/23(水)は天皇誕生日で祝日です。学校の授業が受験勉強の基礎となっています。定期考査ができてない人は、基礎力不足。学力だけでなく、試験にかける準備や意識もです。限られた範囲をしっかりとできずして、広範囲な大学受験に太刀打ちできません。「学年末考査で過去最高の成績を残す」、各自がその目標で最高の締めくくりをして、受験の基礎学力を定着させてください。

そのためには、“段取り八分”です。成功には準備が 8 割、という意味です。準備をしっかりしていきましょう。前回までの考査の反省点を、今回に活かすんだ。そう、歴史から学ぶ。それができれば、受験学力が身に付く。そして、あなた自身の「段取り力」「計画性」も向上する。



1, 2年

現 3 年生の一般受験合格者を招いて、1,2 年生全員に向けて「受験体験談」を聴いてもらいます。文系・理系に分けて実施します。

カウントダウン！

3年生へ	2/25(金)	国公立大学前期入試まで	後31日！
1, 2年生へ	2/4(土)	駿台全国模試まで	後10日！
	2/21(火)～	学年末考査まで	後27日！
2年生へ	2024/1/13,14	来年の共通テストまで	後353日！

進路NEWS東京工業大学が総合・学校推薦型選抜で143人の「女子枠」導入



東京工業大学が、2024 年度入試(今の高 2 世代)より総合型・学校推薦型選抜に「女子枠」を導入することを公表しました。2024 年度入試では 58 名の募集枠（物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院）を新設し、2025 年度入試ではさらに 85 名の募集枠（理学院、工学院）を設け、合計で 143 名の「女子枠」が導入される予定です。

また、理学院・工学院〔総合型〕は「女子枠」のみの募集となる一方、生命理工学院〔総合型〕・理学院〔学校推薦型〕は「一般枠」のみの募集となります。

女子受験生は総合型・学校推薦型選抜において、「女子枠」だけでなく「一般枠」も併願できるので、男子よりもチャンスが多いことになります。2025 年度入試以降、「女子枠」は募集人員全体の約 14 %を占めることになり、現在約 13 %である入学者の女子比率が 20%以上に増加すると見込まれています。なお、「女子枠」の導入によって募集人員総数が変わることはなく、主に一般選抜の募集人員が減少することになります。

入試方法は、これまでと同様に共通テストの受験が必須となっていますが、いくつか変更点も見られます。

また、物質理工学院では、「一般枠」では共通テストの成績をすべて素点通り扱うのに対し、「女子枠」では理科と外国語の成績のみ 1.5 倍換算と、「一般枠」と「女子枠」で扱いが異なります。

選抜区分によっては「筆記」への対策が不要になりますが、「面接」で数学や理科に関する深い知識等が問われることには変わりありません。

また「一般枠」と「女子枠」が併存する選抜では、「女子枠」のみ活動実績報告書の提出が必要であったり、「面接」で女性活躍社会に貢献するために学びたいことなどを説明する能力が評価されたりと、「一般枠」に+αの要件が求められます。

また、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合し（2024 年度をメド）、「東京科学大学」になることが発表されました。